

わたち

令和2年10月16日 第26号

2学期の始まり 才能より人格

今週月曜日から2学期が始まりました。始業式で話しましたが、私の大好きな言葉に「才能より人格」があります。

今、教育界は「学びにむかう人間性」を育むことが大切だと言われています。1学期に職員研修としてお迎えした熊本大学大学院の教授 太田恭司 さんが私たちにお話しされたことがわかりやすかったので、ご紹介します。

～今、オレオレ詐欺などが問題になっています。従来の知識や思考力などを身に付けた子供たちの中にその力を悪用するものがある。オレオレ詐欺などは知識や思考力をフル回転させて悪事を働いている。今こそ、「人間性」が問われている。だから、国も未来の日本に必要なグローバルな視野をもったみんなを幸せにする、できる人間性を育む教育を求めている・・・～と。

やはり、冒頭の「才能より人格」だと思います。これからの時代、ますます人格、人間性が問われます。学校で、そして、保護者の皆さんと産山村の皆さんと手を携えて、みんなを幸福にできる！そんな子供たちを育てていきましょう。

村上 拝

5年 水俣学習を通して 人権を学ぶ！

10月14日(水)、5年生は、現地に学ぶ水俣学習に取り組みました。今年度はコロナ禍により水俣市立水俣病資料館に行き、現地で学ぶことができませんでした。オンラインでの実施を考えていたところ、水俣病の語り部で、漁師で、アーティストの杉本肇さんが講師として来校され、直接、5年生に水俣病のことを語っていただきました。

5年生は、主体的に事前学習をして杉本さんのお話を聴きました。しかし、生の語りを聴くことで、命の海を汚された悔しさ、病気の苦しき、家族の悲しみ、命の限り子供を守り育てるという親の覚悟などが胸に響き、事前学習の内容をより深めることができました。「(水俣病だった)両親は病気よりも差別されることが一番きつかったと言っていた」と語る杉本さんを、5年生は真剣な眼差しで見つめていました。杉本さんの生の語りで、5年生の心の中にある「差別を許さない心の芽」がぐんと伸びたのではないのでしょうか。

今村 拝

